

## 地域との連携・協働

校長 金子正人

猛暑の夏休みが終わり、子どもたちが元気に学校に戻ってきました。7月以降、新型コロナウイルスの感染者が連日最多を更新し、思うように遊びに行けなかった子もいたことでしょう。安心できない日が続きますが、学校ではこれまで通り感染対策を講じながら教育活動を継続します。ご家庭でも引き続き、検温と健康観察にご協力いただき、ロイロによる送信をお願いいたします。

7月に第1回学校運営協議会を開催しました。昨年度まで「まちと共歩む学校づくり懇話会」として地域の関係者の皆様に意見をうかがってききましたが、今年度から国が推進する学校運営協議会に移行し、地域との連携・協働を一層強めていきます。授業を参観された委員の皆様は、「支援の手厚さ」や「ICT活用」に驚かれたようです。外国につながる児童が多い本校では、日常的に日本語支援関係のボランティアが入っているのですが、その他にも読み聞かせ、生活学習支援、放課後学習支援、行事のサポートなど多くの地域・保護者ボランティアの方々に活動していただいています。このように多くの方が教室に入ること、担任や担当一人では難しい支援が可能になり、子どもたちにとってもよい効果が出ています。地域・保護者の皆様のサポートに心から感謝します。

委員の皆様からはタブレット端末の活用についても多くの質問や意見をいただきました。本校では、学校全体でICT活用を進めており、そのために必要な研修も年間通して実施しています。教室では1年生から6年生まで誰でも当たり前前にタブレット端末を使えるようになってきました。「デジタル教科書があれば重い教科書は学校に置いて帰ってもよいのではないか」というご指摘もありました。現時点ではそうはなっていませんが、国もデジタル教科書の活用を進めているので、何年かするとランドセルの中身が一変しているかもしれません。

同時にタブレット端末やスマホなどの使い過ぎによる弊害についてもご意見をいただきました。こちらは、学校保健委員会で「メディアとの付き合い方」をテーマに1年間かけて子ども主体で実態把握をして対策を練っているところです。委員の皆様ありがとうございました。

学校とは離れますが、6月に行われた寿東部連合町内会の地区懇談会は「防災」がテーマでした。外国人住民が増える中、震災が起きた時に、言葉が通じない住民とどのように意思の疎通を図るか、避難所での生活を円滑にするためにどのような工夫が必要かなどを話し合いました。今年は南消防署や横浜橋通商店街が民間企業とコラボしての「防災寺子屋」という企画を立ち上げました。学校では3年生が社会科の授業で消防署見学などを通して防災について学ぶのですが、「防災寺子屋」企画に乗っかり地域の課題について子どもたちの視点で一緒に考えていけたらと思います。

夏休み明けは暑さも一段落し気候もよくなるので、学習に運動にと全力で取り組み、子どもたちが輝ける場をつくっていきます。コロナは予断を許さない状況ではありますが、地域・保護者の皆様もぜひお力添えください。どうぞよろしくお願いいたします。

